

年度 2009 学期 前期	曜日・校時	金曜日 3校時	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能(皮膚とその病気) / Biological Science(Skin and diseases)				
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員(科目責任者):清水和宏 /Eメールアドレス:kasimizu@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 医学部 皮膚科学 /TEL:095-819-7333 /オフィスアワー:金曜日 13時から15時				
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤伸一、清水和宏、竹中基、小川文秀、室井栄治、築場広一、原肇秀、亀山雄一郎				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標					
<p>授業のねらい: 皮膚は外界に接する臓器であり、種々の刺激を受ける可能性の高い臓器である。また内部の変化を反映する臓器でもあり、その反応はしばしば皮疹として目で確認する事ができる。担当教官は全員皮膚科専門医であり、無侵襲で確認できる皮膚の変化を講義にて皮膚科専門医が説明し、皮膚の生理、機能を理解してもらう。</p> <p>授業方法: 皮膚科専門医がパワーポイントを使い、実際のケースにおける皮疹を提示説明する。質疑応答の結果をふまえて報告レポートを提出してもらい、理解力・問題探求能力・問題解決能力について評価する。</p> <p>授業到達目標: 知的活動への動機付けを高め、科学的な思考方法と学習能力を育てる。学生と教員相互の子ミュウにケーションを図り、もの見方考え方の多様性を涵養する。</p>					
授業内容(概要)/授業内容(毎週の授業内容を含む)					
<p>授業内容(概要) 代表的皮膚疾患を対象として、その典型的な皮疹をスライドでまず確認してもらう。皮疹の性状を皮膚科専門医が説明し、見えている皮疹から得られる情報を整理してもらう。また顕微鏡による観察を説明し、肉眼所見との関連性を理解へと繋げる。最終的にはその疾患の臨床経過が説明され、その疾患の大まかな理解をしてもらう。具体的な症例を提示する事によって皮膚の生理、機能、役割を理解してもらう。</p> <p>第1回 皮膚疾患と免疫(佐藤伸一)</p> <p>第2回 光線により引き起こされる皮膚病(清水和宏)</p> <p>第3回 アレルギー性疾患(竹中基)</p> <p>第4回 皮膚良性腫瘍(小川文秀)</p> <p>第5回 水ぶくれの話 上(室井栄治)</p> <p>第6回 帯状疱疹のはなし(原肇秀)</p> <p>第7回 カネミ油症(亀山雄一郎)</p> <p>第8回 皮膚癌(築場広一)</p> <p>第9回 水虫と虫による皮膚病(竹中基)</p> <p>第10回 表皮内癌(小川文秀)</p> <p>第11回 水ぶくれの話 下(室井栄治)</p> <p>第12回 塗り薬のはなし(原肇秀)</p> <p>第13回 膠原病(皮膚筋炎を中心として)(亀山雄一郎)</p> <p>第14回 膠原病(病強皮症を中心として)(築場広一)</p> <p>第15回 太陽光線とのつきあい方と全授業の総括(清水和宏)</p>					
キーワード	皮膚				
教科書・教材・参考書	標準皮膚科学(医学書院)				
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況、プレゼンテーション、レポートなどで評価する。各回100点、計1500点満点				
受講要件(履修条件)					
本科目の位置づけ/学習・教育目標					
備考(準備学習等)					